

会議記録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 23年 6月 30日(木曜日)	開催時刻	13時 30分から 14時 50分
会議名	丸子地域協議会(平成 23年度第 3回)		
出席委員	齊藤会長、北村副会長、生田委員、内田委員、上坂委員、笹井委員、佐藤委員、清水委員、関委員、滝澤委員、中澤委員、成澤委員、松山委員、丸山委員、宮下委員、村松委員、横山委員【欠席】池内委員、倉沢委員、山越委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、宮澤センター次長兼地域振興課長、下村地域振興政策幹、芹澤市民生活課長、松井健康福祉課長、矢島産業観光課長、小相沢建設課長、小林消防課長、松村上下水道課長、高野丸子学校給食センター長、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

会議次第

1 開会(宮澤センター次長)

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

2 あいさつ(齊藤会長)

本日は幾分過ごしやすいですが、このところ 2、3日非常に暑い日があり、6月としては記録的だということです。また、松本で震度 5強の地震が発生したということで、非常に心配されます。委員の皆さんには、お体に気をつけていただきたいと思います。

本日は、旧カネボウ食堂棟活用に関する報告書の取り扱いについてと、地域まちづくり方針の答申内容の調整案についての御審議をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

3 議題

(1) 旧カネボウ食堂棟活用に関する検討結果報告書の取り扱いについて

【会長より内容説明】

- ・旧カネボウ食堂棟の活用については、昨年 11月の協議会に、専門部会から報告書が提出され、その後、最終的な取り扱いは会長・副会長・専門部会長に一任をされた。今回、その検討結果の取り扱い方針を決定したので、皆さんにお諮りしたい。
- ・結論としては、第 3期協議会の任期中に結論は出さず、専門部会から提出された検討結果報告書を次期の協議会へ引き継ぐ事とし、次期以降の協議会において、周辺の建物が完成し、人の流れなどが確定した時期を見計らい、再度検討してもらうという事としたい。

【専門部会長より補足説明】

- ・専門部会としては報告書の内容が全て。6月 8日に部会メンバーで意見交換した中では、報告書に書いてある結論に同意する意見が多かった。専門部会として、報告書の取り扱いについての結論は特に出さないと考えている。それぞれ専門部会の委員の皆さんの中で、取り扱いについての個人的な意見があれば、是非積極的に御発言いただきたい。

資料 1: 旧カネボウ食堂棟活用に関する検討結果報告書の取り扱い方針について

主な質疑の内容

(委員) 3月の大震災等で避難している人のことや、市で災害が起きた場合のことを考えると、先送りするのはどうなのかと思う。図書館や中央病院のことは、今出た問題ではなく前から出ていた。状況が変化することはいつの時代も起こりうる。先送りでなく、食堂棟をどうするかをもう少し具体的に考えた中で、結論を出していただければありがたい。

(専門部会長) 部会メンバー皆が全て同じ考えというわけではない。取り扱いについては、個人的な意見をそれぞれ持っており、それはそれで尊重していただければいいと思う。最終的に、協議会としては方向性を出さなければいけない。皆さんの多い意見の方向でとりまとめをしていただき、場合によっては、そういった少数意見があったということも並記してもらい残していただけたらどうか。

(委員) どんな結果であれ、ひとつ結論を出して、市へ意見書を出していきたい。

(委員) 並記することについては、それでもいいと思うが、状況の予測がつかないということで、こういう結論になったのだから、私はこの形でやむを得ないと思う。決して後ろ向きの結論ではなく、かえって前向きな結論だと思っている。もう1、2年して、色々な建物ができ、人の流れが出てくると、もっと大事なものが見えてくるかもしれない。そのために、そのまま残しておくということでもいいのではないか。

(会長) 先送りしてより良いものに、また建物そのものを取り壊す、あるいは市の土地からなくなっていくというわけではないので、少し様子を見て、また協議会の中でしっかり討議していただきたいということで、今回のような提案をさせていただいた。先ほどの意見を付け加えた中で、今回の取り扱いを良してもらえればと思うがどうか。

【 多くの委員からの同意を確認 】

(会長) 協議会預かりということで、もう少し様子見ということで結論付けたい。

(専門部会長) 第2期から話が続いている内容もあるので、次期協議会へ残していく色々な資料の中に添付する形で残していただけるようお願いしたい。

(2) 地域まちづくり方針について

- ・ 上田市総合計画全体の文章や言葉遣い等との整合を図りながら答申内容を調整
- ・ 趣旨や内容の変更ではなく、文章表現を若干調整
- ・ 調整内容の詳細について各担当課より説明

資料2: 変更後 当日資料 まちづくり方針 調整案

主な質疑の内容

(委員) 全体で語句の統一ということで、「取り組み」を「取組」としているが、動詞と名詞とで区別すべきではないか。動詞で送り仮名がないのは読めない。言葉の正しい使い方をしてほしい。

(センター次長) 再度確認させていただきたい。

4 その他

(1) 次回会議の開催日等について

- ・ 年間行事予定表の 印は地域協議会開催予定日

・第5回地域協議会は、8月29日、31日、9月1日、2日の中で調整することで決定
資料：平成23年度7月～12月丸子地域協議会年間行事予定表（案）

決定事項

- ・第4回丸子地域協議会 平成23年7月21日（木曜日）午後1時30分から
丸子地域自治センター 4階 講堂

(2) その他

(ア) 前回の分散会での協議内容について

第1分散会（第1分散会長から報告）

以下の大きな5つの意見が出ており、ここから段々と絞り込んでいく。分散会でやるか、委員会等を作ってやるのがいいのかについての結論はまだ出ていない。

市民感覚で協議するシステムづくり。

- ・自治連と市長、市議会議長との三者懇談会は比較的前向きな回答が得られやすい。
- ・問題を把握（共有）するためには自治会や市民、議会との対話が必要ではないか。

緊急時及び災害時の支援対策をどうするかを検討するチームをつくる。

- ・全家庭対象の緊急連絡カードづくり（自治会長が管理、毎年更新、住所と電話番号程度）
- ・自治会長も民生委員も把握できていない。

交通弱者（買い物弱者）の支援づくり。

過去の協議会で意見があった地域課題16項目から絞り込んでやっていく。

住民の自主事業の活動を支援する。

- ・魅力アップ応援事業を盛り上げる、後押しや支援内容の見直し。

第2分散会（第2分散会長から報告）

協議会任期が来年3月までということで、なるべく早く分科会を立ち上げる。できる限り課題として意見を挙げ、答えを出す。または、次期協議会に持ち越せる形の問題提起をしたい。すぐに分科会を作るのは難しいので、地域と一緒に取り組む形で委員それぞれ個々に取り組み、また何人かで参加する形でできれば、意見としてあげていきたい。

藤原田の荒廃農地解消への取り組み

魅力アップ応援事業（第1分散会と同じ意見が出ており、取り上げていいのではないか）

助産所の研究

教育関連

ファーストビルの有効的な活用方法についての研究

その他

- ・地域協議会へは市側も積極的に参加してもらいたい。（全体会以外にも入ってほしい。）
- ・もっと各種の情報を提供してほしい。早く情報を把握したい。
- ・委員の知らない情報や行政側の考えを聞いた上で、市へ要請するか否かの判断をしたい。
- ・「協議会は市長の諮問機関であり必要と見込まれた場合のみ」という問題のハードルを越え、今の問題を取り上げられるようにならないか。

(会長)先日、丸子地域の市議会議員とお会いする機会があり、そこで御提案があった。地元議員としても、地域住民との話し合いを持ちたいということで、是非、地域協議会の皆さんも御一緒ということだった。地域協議会の中でも、議員さんとの懇談会や自治会長さんとの懇談会については何度も出されているが、皆さんそれぞれお忙しく、なかなか日程が組めずにいる。お互い都合のつく人だけでいいのではないかという中で、地域協議会委員、市議会議員、自治会長の三者合同で、地域の皆さんに呼び掛けながら一堂に会して、色々な地域問題を話し合える懇談会を催したらどうかというお話をいただいている。事務局とつめながら、三者で地域住民と懇談できるような場が持てるよう取り組んでいきたいと考えている。方向性が出たら、委員の皆さんには呼び掛け等の協力をお願いしていきたい。また、地域協議会をより知ってもらう形の中で、御賛同をお願いできればと思っている。

(イ)上田市における空間放射線量の簡易測定について(市民生活課)

・担当課より資料に基づき内容説明

資料：上田市における空間放射線量の簡易測定について

主な質疑の内容

(委員)おおよその測定時期を教えてください。

(センター長)測定機器を3台発注しているが、なかなか納入されない状態。うち、1台はお盆前には入るのではないかとということで、その1台を使って測定を開始する。測定地点については、1台をどう活用するか絡みもあり、現在検討中である。

(委員)もしものことがあったら、例えば、新聞にあるようなどれ位レベルで、避難するかわからないということがここにはない。測定をして公表するだけか。あとは本人で考えるということか。そこまでは考えていないか。

(市民生活課長)御心配な部分も多々あるかと思う。まず測定し、正確な数値を皆さんにわかりやすく公表するもの。公表する中で、もし本当に人体に危険性を及ぼすようなことがあるとすれば、その対策も一緒に指示させていただくようになるかと思う。

(委員)測定場所について、「一定のエリアの代表的な場所」というわかりにくい表現になっているが、いずれにしても3台しかないとなると、この広い上田市の中で、どういう条件の所を測定場所とするのか。基本的な方針があるのか。中心部だけを測るようなことになってしまうことはないか。実際に今あちこちで、放射線量の分布が非常に複雑な形で、気流等の関係で変わってくるという実態が示されている中で、上田市では、三ヶ所をどういう基準で設定するのか。

(市民生活課長)細かい基準等は検討中であるが、3台で3ヶ所とは考えていない。1台で数ヶ所測るということ。毎日測るのか、一週間に1回測るのか、月何回測るのか、サイクルについても併せて出てくると思うが、長野県では現在、月に2回、8ヶ所の場所で測定をしているということで、県の色々な基準等と合わせながら、上田市の測定地点を決めていくことになると思う。

(委員)放射線量について、やはり問題になるのは小さい子どもや農作物だと思うが、何かあった場合の学校や幼稚園保育園、農家さん等との連携や連絡を取る方法、対応等の検討はされているか。もしくは、今後検討する予定はあるか。

(市民生活課長) 今、こちらで測定の対象とされているのは空間の放射線量で、食物に対する測定はこの機器ではできない。

(センター長) 先ほどの委員さんのお話の中で、大変な数値が出た場合はどうするのかということについては、その場合は対処方法を含めて皆さんにお知らせしていくということ。現段階での測定地点の考え方は、市内を 10km 四方のマス目に区切り、その中から 1ヶ所ずつ選んで測定をしていくということのようで、その中には自治センターは必ず入ること。当然、10km 四方の中に学校や保育園等が入ってくると思う。測定の仕方には、地上から 1.5m で周囲に何も無い所等の要件があるようだが、その 10km 四方に区切った中で、測定に一番いい場所を選んで測定をしていくということである。保育園幼稚園、小中学校との連携をして、このような状況だからこうしてもらわないと困るということが必要であれば、当然お知らせをしながらやっていくという形になるかと思う。

(委員) 土壌や下水等の測定は検討されているか。

(上下水道課長) 上水(飲み水)は、3月24日と5月27日に表流水(流れている水を出してを使っている水道水)を使っている染屋・石舟・腰越・鹿教湯・赤井の浄水場、この5地点について、水道水の放射性物質を測定した。ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 いずれも不検出。直近では、正式な検査結果は聞いていないが、6月22日に採水したものについても、全て不検出という状況である。水道水は、県では毎日長野でやっており、上田では週1回程、諏訪形にある県の浄水場で検査をしており、いずれも不検出という状況。下水道の脱水した汚泥、それを焼いた焼却灰については、放射性物質が検出されたということである。上田の脱水汚泥がどのように使用されているかということ、セメントの原材料に活用している。場所によっては、堆肥化しているところもある。セメント業者の方からは是非検査をしてもらいたいとの要請があり、5月17日に採取し、検査をした。上田終末処理場、南部終末処理場、丸子浄化センターの3ヶ所で調査。脱水汚泥については、上田終末処理場がヨウ素は不検出、セシウム 134、137 各 30 の合計 60。焼却灰については、ヨウ素は不検出、セシウム 134 が 840、セシウム 137 が 920 と結構高い数値。これは、もとの下水が流れてきた状態からすると、焼却灰にすると何万倍かに濃縮されるということ。南部終末処理場については、全て不検出。丸子浄化センターについては、ヨウ素は不検出、セシウム 134、137 は各 40 という結果が出ている。この3処理場については、全部セメントを入れるということ。それを堆肥化しておくことについても検査をしるということで、西内浄化センター、真田の浄化センター、別所温泉の終末処理場で測定。丸子の関係で西内浄化センターについては、ヨウ素は不検出、セシウム 134、137 は各 20 の合計 40 という値が出た。この 20 という値は、現在測定されている機械の最小値である。20 未満だと不検出、例えば 10 とかという数値は不検出となる。検出される最低の値が 20 であり若干ズレているということ。原因については県の見解にもあるが、通常流れている時には検出されないような数字だが、脱水によりかなり濃縮されるというような状況。また、雨水に含まれているものが濃縮されているのではないかということ。まだはっきりした原因はわかっていない。

(委員) 数値を言われてもよくわからないので、資料にしていただけませんか。

(上下水道課長) 上田市のホームページや新聞で公表している。そちらを御覧頂きたい。今後の予定としては、定期的に検査をしていく。空間放射線量と同じで、測定された時には

検査結果をホームページ上に載せていきたい。

(委員) 焼却灰について、東京都などは引き取り手がなく山積みになっていたり、置き場所がないということだが、丸子の場合は、引き取っていただけているのか。

(上下水道課長) 丸子の場合は、非常に数値が低いということで、丸子浄化センターが出す分については、糸魚川市にあるセメント工場へ、最初から停止することなく持って行っていただいている。西内浄化センターは、堆肥化にするということで、一時は基準がないということで止まったが、放射性セシウムの濃度が 200ベクレル以下のものについては、肥料の原料としていいということが国で決まり、排出がはじまった。

(ウ) 絆なんでも宅配について (産業観光課)

・ 7月 11日 (月) 注文受付開始 (TEL・FAX・E-mail のいずれかで受付、翌日配達)
・ 委員さんの御近所に買い物弱者の方がいましたら、会員登録の申込をしていただく PR をお願いしたい。

主な質疑の内容

(委員) 各分散会でも交通弱者・買い物弱者の問題やファーストビルの使い方の問題が出ている。地域協議会からも絆再生会議に参加し、そこで出た問題を協議会に持ってくるなどの方法をとっていかないと、これはこれで動いていて、地域協議会はまた別でやっていかなければいけない部分がある。協力体制をとらせていただけないか。

(産業観光課長) その通りだと思う。皆さんに情報が断片的にしか伝わらない部分がある。報告はしているが、情報の不足はあると思う。今後、もし御参加いただけるようであれば、絆再生会議の方にこの内容を報告し、なんとか情報のやり取りができる形をとっていきたい。

(委員) 一つ提案したい。助産所について、分科会にするのではなく、長いスパンで考えていかなければいけないことだと思う。研究会のような形で、地域協議会から立ち上げ、一般の方にも参加していただき、この問題を研究していく。どういう風に進めていったらいいか、保健師さんにも入っていただいてやっていかなければいけない問題だと思う。産科もなければ婦人科もない。そういう点では僻地である。武石とも連携してやっていきたい。賛同できる方は、研究会というような形で立ち上げることに御協力いただきたい。まずは、協議会委員の中から有志で立ち上げていきたい。

(会長) ぜひその方向でお願いしたいと思います。

5 閉会 14:50 地域協議会終了後、分散会を開催 (第 3 4会議室)